

気持ちの表現（皮肉・ジョーク・比喩）

セラピーの中では、課題、絵本読み、絵日記の活動を通じてさまざまな表現を意識的に使います。目の前の事物の名前を言うことや事実をそのまま伝えることだけではなく、物事を何かに例えたり、相手の気持ちを考えて遠まわしに言ったり、相手の言葉の裏の意味を読み取ったりすることはとても大切なことです。それが、皮肉であったり、ジョークであったり、比喩であったりするのです。私たちは、生活の中で自然にこのようなやりとりをしているものです。

ご家庭や集団生活の中でも、自分の気持ちを上手に伝えたり、相手の気持ちを読み取ることを、身につけていきたいですね。

<形容詞をたくさん使おう！>

- ・ 物の名前を「教えよう」と思うとついつい、言葉かけが名詞に偏りがちになります。そして、名詞の中でもセラピーの中で扱うことの多い、動物の名前や乗り物名前に偏ることも多く見られます。
- ・ 形容詞は名詞や動詞に比べて、感情をこめやすい言葉です。そのため、行動に合わせて表現がしやすく、そして子どもにも伝わりやすいのです。
 - ☆ 「わあ、ママのカバン重い。〇ちゃん持ってみる？重いね。」
 - ☆ 「お水、冷たいねー。」「ママのお茶は熱いよ。あっちー」
- ・ 形容詞を使って子どもの気持ちを言語化してあげましょう。
 - ☆ 「滑り台、楽しいねー。」
- ・ お子さんの気持ちを言語化するだけでなく、お母さんや周囲の大人の気持ちを伝えることもとても大切です。このような経験から相手の気持ちを理解しようとする気持ちが育ちます。
 - ☆ 「プレゼント、ありがとう。ママうれしい！」
 - ☆ 「ママと〇〇がおでかけして、パパさみしいんじゃない？さみしい、さみしいって言ってるかな〜？」
 - ☆ 「〇ちゃん、プール行ったの？ いいな〜、ママうらやましい」

<どうして？なんで？>

- ・ 「これ何？」と名前を知りたがる第一質問期の次には「どうして？」「なんで？」と何に関しても理由を聞きたがる第二質問期が始まります。
- ・ まずは周囲の大人が自ら行動に対して理由づけをすることに慣れていきましょう。
 - ☆ 「ママ、今日は公園行きたくないな。だって疲れてるんだもん。」
 - ☆ 「今日は寒いから、暖かいラーメン食べようか！」

- ・ お子さんの言っていることに対しても理由を聞いていきましょう。最初からすぐに答えられるわけではありません。上手にお子さんの気持ち（理由）を拾ってあげたいですね。
 ☆ 「どうして食べないの？」（お子さんが答えられないときは）「おなかいっぱいになっちゃったの？〇〇が嫌いなのか？」「そっか、じゃあ、半分食べる？」
- ・ 「どうして？」はエンドレス。面倒がらず、付き合ってあげましょう。時には「〇ちゃんは どうしてだと思う？」と聞き返すと実は上手に答えてくれたりします。

<言い訳上手になろう！>

- ・ 言い訳をされると面倒なものです。しかし、言い訳の裏には何とか自分の意図する方向へ持っていこうとする子どもの気持ちがあります。いろいろ考えながらそれを言葉にする過程を大切にしてください。

【エピソード1】

- ・ セラピー開始時に必ず訓練をしなくて言い訳をするお子さんがいました。

子ども	「疲れちゃった」「病気…」
ST	「そうか…、病気じゃ勉強できないね。病院で注射打ってもらおうか」
子ども	「病気、ちがう」
ST	「あー、良かった。病気じゃなかったら、勉強できるね」
子ども	（髪の毛をさわりながら）「髪の毛（あるから）目、見えないの」
ST	「えー、目見えないの？じゃあ、〇ちゃんみたいに眼鏡しなくちゃ」
子ども	（髪をよけて）「大丈夫、見える」

- ・ 『訓練はしたくない → 病気って言えば勉強しなくて済むかな？ → 病気だと注射かぁ…注射はいやだな → 目が見えなければ勉強しなくて済むかな？ → 目が見えないと眼鏡か…眼鏡はいやだな』
- ・ このお子さんとはいつもこんな感じでセラピー開始前にひとしきりのやりとりをしていました。これも実はセラピーの一環になります。これだけ、理由づけができることも大切なことなのです。

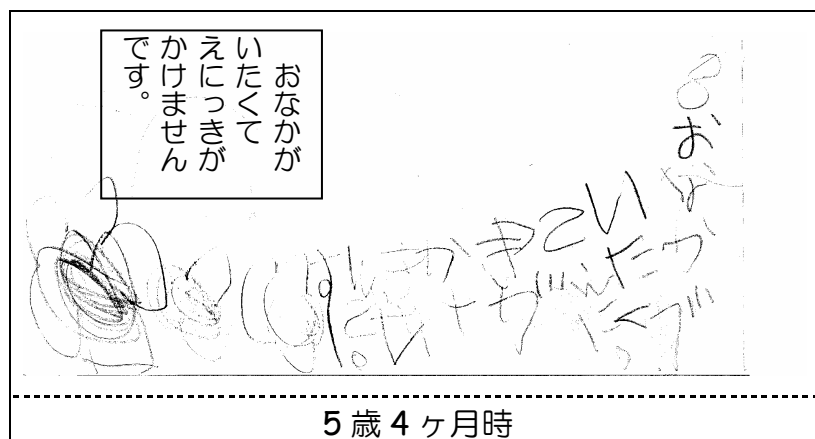
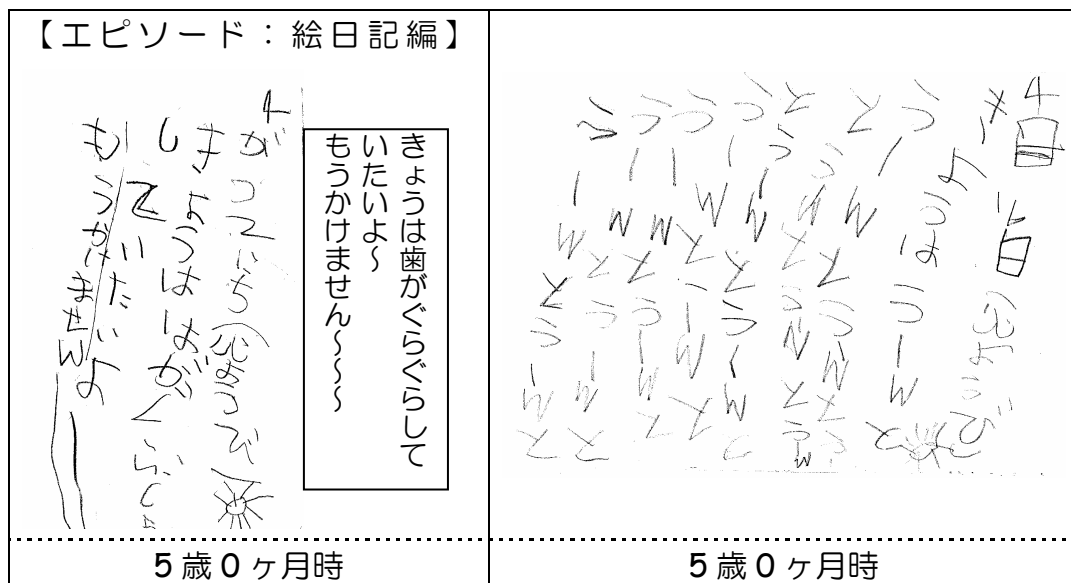
【エピソード2】

- ・ 同じお子さん、セラピー中にやたら「でもさー」と言うようになりました。親の記録にも「最近やたらと「でもさー」と言い訳をする」と書かれており、私が感心して「あらー、お母さんがよく使ってるから覚えたんじゃない？」と言うとお母さんには「（使っているのは）先生です…」と言われてしまいました。お互いに毎回「理由づけバトル」をしていたら、覚えてしまったのです。こういうやりとりの中で覚える表現（「だって」「でもさ」「どうしても〇〇したいの」）もたくさんあります。

ST	「××しようよ。」
子ども	「でもさー、〇〇なんじゃない？」
ST	「えー？ でもさー、△じゃん…!!」（確かに私でした…）

<子どもは子どもらしく！>

- ・ 子どもだってさぼりたい時ややりたくない時だってあります。素直にそれを表現できるようになって欲しいですね。



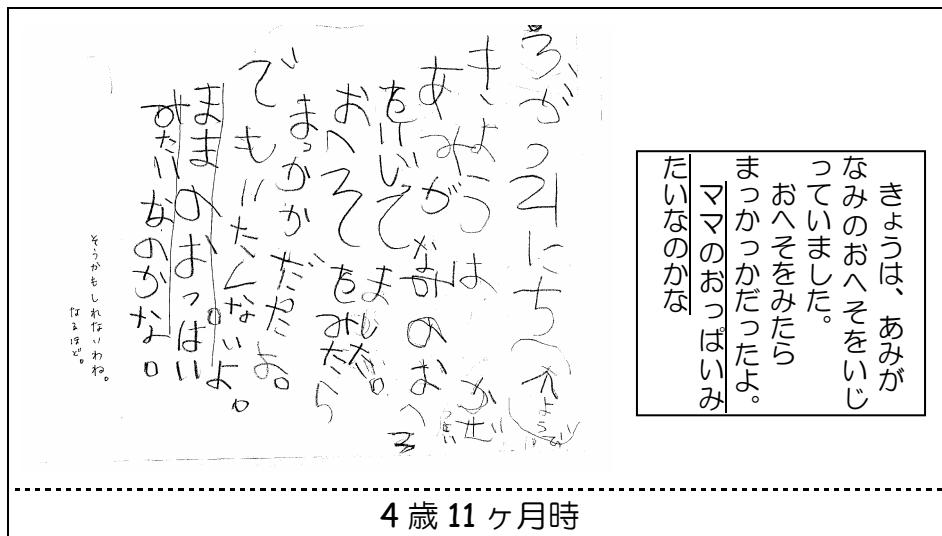
5歳4ヶ月時

★絵日記だって書きたくない日や書けない日、何を書いていいかわからない日がありますよね！

<例えることは楽しい！>

- ・ ただ物の名前を言うだけでなく、徐々に「〇〇みたい」という表現も使っていきたいですね。ブロックや形遊びの中でもたくさん使えますね。
- ・ 必ず同じものに例える必要はありません。このような「例え遊び」の中でも理由づけを扱っていきます。
 - ◇ 「白い丸が二つあるよ。くっつくと雪だるまみたい！」
 - ◇ 「エプロンするとママみたいね」
- ・ 少し、ぐずぐずしたり、言うことを聞かないときにもただ、「いけません」と叱るだけでなく「おかしい、赤ちゃんっぽいよ」というような表現もできますね。

【エピソード：絵日記編】



＜相手の立場を考えられる子＞

- ・ 「もし〇〇だったら」といった仮定の表現は、自分がもしその立場だったらとい
うことを考えることが必要です。絵本読みなどで「ママだったら、△なのにな。
〇ちゃんだったらどうする？」といったやりとりを楽しみましょう。「パパだつた
らどうするかな？」と他の人についても考えてみるといいですね。

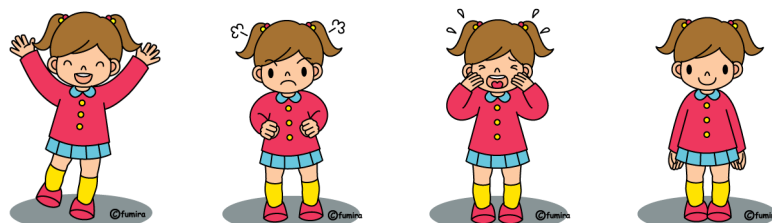
【エピソード：お守り編】

- ・ これは、私がオーストラリアに留学する前に一人の女の子が作ってくれたもので
す。私が「教わる立場になる」ということを考えながら書いたのでしょうか。担
当クラスの皆がお守りを作ってくれたので、泣きながら皆のお守りを開けて読ん
でいる時に、思わず、笑ってしまったお守りの一つです。



「おへんきょうのとき先生のいうことをき
ますように」

先生であった私が、今度は「教わる側」に
なるということをきちんと理解し、その立場
に立って書いたお守りです。



<言葉の裏を読み取る>

【エピソード】

- ・ 年中～年長の頃に担当していた人工内耳装用児の二人、既に中学生になっているのですが、夏休みを利用して、息子共々、軽井沢で一緒に泊まりに行きました。Sちゃんはまだサンタクロースを信じているのですが、Aちゃんはかなり半信半疑。一生懸命、事の真相を探ろうとするのです。そんなやり取りを散々する中、私がついに口を滑らせてしまいました。
 - ☆ Aちゃん：「〇君（息子）はサンタクロースにプレゼントをもらったの？」
私：「〇はもらってないよ。どうせ分らないじゃない」
A：「あー!!!やっぱりいないんだ。だって、どうせ分らないって言ったもん」
 - ☆ 『もしサンタクロースだったら、分らない子にもあげるはず。土井先生がサンタクロースだからどうせ分らないからあげるのをやめようと思ったんだ』と言葉の裏を読み取られてしまいました。
 - ☆ これも相手の立場にたって物事を考えられるということが前提にあります。

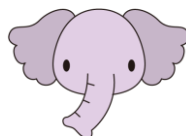
<想像することを楽しもう>

- ・ 目の前に見える物事の裏にはどんな事が起きているのかを想像してみることも楽しいですね。
- ・ 一つの事柄から他の事に発展させたり、想像させることもとても大切です。

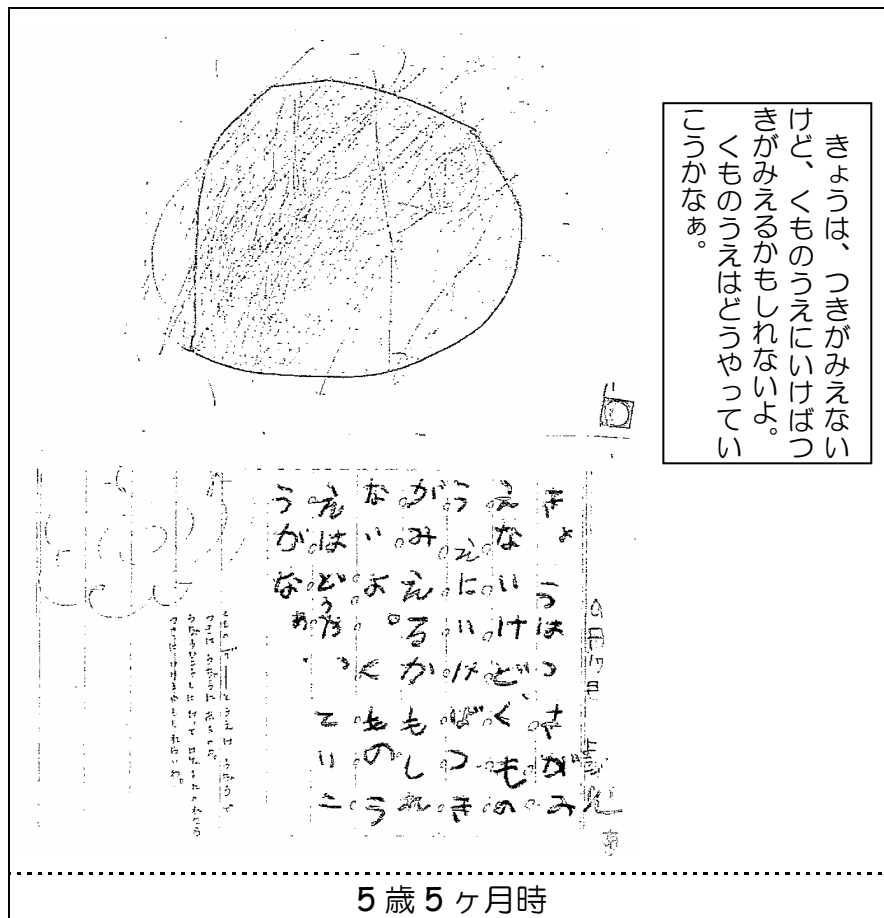
【エピソード】

- ・ 私がオーストラリアに留学をすることになったので、オーストラリアについて話をするようになりました。色々なことを話題にすることで、知識を広げ、想像することを楽しみます。

ST	「オーストラリアではね、カンガルーのお肉を食べるんだって」
子ども	「えー?! じゃあ、コアラも食べちゃうの?」
ST	「オーストラリアと日本は季節が逆なんだよ。」（ひとしきり反対の季節を考えさせる）「じゃあ、オーストラリアでサンタクロースが来るのはいつ?」
子ども	「夏!!」「でもさー、どうやって来るの?」
ST	「サーフィンで来るんだって」
子ども	「サーフィンって何?」
ST	「 <u>板みたい</u> なので、海の波に乗ってくるんだよ（絵を見せる）」



【エピソード：絵日記編】



＜絵日記を活用しよう！＞

- ・ 初期の絵日記から物や場所の名前のみを扱うのではなく、自分の気持ちや相手の気持ちについて語れる絵日記にしていきたいですね。そのうち、難しい表現もできるようになっていきます。

【エピソード：絵日記編】

